

- ① 愛知県のとんかん診療をリードする、名大病院てんかんセンター
・新任のご挨拶
- ② 名大病院臨床研修医のご紹介
・ナディック通信
・令和2年度鶴舞公開講座
- ・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い
・ボランティアさん募集
・禁煙をお願い
・かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

基本方針 ● 1. 安全かつ最高水準の医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。 3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーをご覧いただけます

TOPICS ① 愛知県のとんかん診療をリードする、名大病院てんかんセンター



愛知県てんかん診療拠点機関である当院では「名古屋大学医学部附属病院てんかんセンター」を開設し、最高の医療提供を目指して活動しています。センターに所属する脳神経外科の前澤聡特任教授、小児科の山本啓之助教に、てんかんの治療やセンターの取り組みなどについて伺いました。

てんかんは誰にでも起こりうる脳の病気

てんかんは、てんかん発作を繰り返す慢性的な脳の病気です。発作にはけいれん、短時間の意識の消失、無意味な動作など数多くの種類があります。発作の原因はさまざまで、遺伝子や代謝の異常、脳梗塞やアルツハイマー病など脳の障害によっても生じ、発症年齢は赤ちゃんから高齢者まであらゆる世代にわたります。約100人に1人の割合で発症するため、愛知県内には約7万5千人の患者さんがいるものと推定されます。

てんかんの治療は基本的に薬によるもので、約70%の患者さんは薬で発作をコントロールでき、残り30%の方は食事療法や外科手術を検討します。発作を起こす場所（焦点）を切除する外科手術は根治的な治療になりえますが、今はまだ大多数の方が生涯つきあっているかたがた病気の病気です。ただ、小児てんかんの一部には、頭部の成長とともに自然と治るものもあります。

診療科・多職種・地域が連携する、てんかん診療の中核

当院では、以前から小児科の神経グループが国内でも先駆的な治療を行い、脳神経外科にはてんかん外科を設けて外科手術を積極的に行ってきました。こうした実績に加えて院内に精神科、脳神経内科などが揃っていることもあり、愛知県てんかん診療拠点機関に指定されています。

2018年には、

関連する多様な診療科、医療部門から専門家が集結した「てんかんセンター」を設立し、各診療科・多職種が連携すると同時に、医師や医療スタッフに向けた研修会も行い、診療レベルの向上に取り組んでいます。また、病状に合わせた適切な治療を提供するため、当センターが中心となって県内の医療機関との有機的な連携を図っています。

一方で、てんかんは発作さえコントロールできれば、患者さんは通常の生活を送ることができ、社会に正確な情報が伝わっていないため、いまだに差別がなくならない状況にあります。そこで、正しい知識を知っていたくための市民公開講座を開催し、患者さんの就学や就労の支援にも力を入れたと考えています。

センターを進展させ、診断技術の研究も推進

今後は、てんかんセンターを病院の一部門としてより発展させていくことが目標です。てんかんセンターとして一体となり活動することで、小児期から成人期、老年期にいたるまでシームレスな医療を提供したいと考えています。つまり、患者さんを一生サポートする治療体制です。また、現時点でも当院の提供できる精密な焦点診断が可能で機器を有している医療機関は日本でも数少なく、当院は重要な役割を果たしています。欧米で進むレーザー治療、電気刺激治療の導入や、より正確な発作焦点の推定法の開発など先進的な医療法の導入開発を目指しています。

最後にてんかんには、急にほろっとしたり、口をモグモグさせるなど、てんかんと気づきにくい発作があります。気になる症状がある方は、ぜひ、かかりつけ医にご相談ください。

新任のご挨拶

消化器外科一科長/教授 江畑 智希

この度、令和2年6月1日付で名古屋大学医学部附属病院消化器外科一科長/教授を拝命いたしました。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

当科は、腹部内臓を中心とした疾患を扱う診療科です。主に、がんに対する切除治療を担当しています。がんの大きさ、年齢、生活環境など、事情は人それぞれ異なります。そのため、最も適した治療を一緒に考えることが大切です。診療科を挙げて安全・丁寧を合言葉に取り組みしていきます。



今後ともご支援・ご指導を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

整形外科長・リウマチ科長/教授 今釜 史郎

この度、令和2年7月1日付で、名古屋大学医学部附属病院整形外科・リウマチ科の科長/教授を拝命いたしました。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

整形外科学・リウマチ学は、骨や関節軟骨、靭帯、筋組織、神経に関するたくさんの疾患を対象とした、全身の幅広い部位を網羅した分野です。これからも、各部位の全専門グループを挙げて高度な臨床医療や研究を推進し、整形外科学・リウマチ学の発展を通じて、患者さんの医療に大きな貢献ができるよう努めます。皆様には、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。



今後ともご支援・ご指導を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

特集 TOPICS **2**

名大病院臨床研修医のご紹介

名大病院では現在、医科歯科合わせて38名の研修医が医師としての道を歩み始めています。本シリーズでは隔回掲載で、医師を目指して日々取り組む研修医の、フレッシュな意気込みをご紹介します。



衛藤 敬子 (医科研修医)



今春から研修医としての生活が始まりましたが、知識も技術も足りないことばかりで、自分の至らなさを痛感する日々が続いています。

そんな中で、末期癌の患者さんの最期を看取らせていただく機会がありました。その患者さんは、未熟な研修医の私に対しても心配りくださる優しい方でした。私は「不安や苦痛を取り除いて心穏やかに過ごしたい」という思いに寄り添おうと努めました。しかし、「あの時、もっとこうしておけばよかった」という多くの後悔が残りました。そして、緩和ケアを私の専門の一つとして学ぶことに決めました。

医師を志す者として知識や技術の習得に努めると共に、「不安や苦痛に寄り添うためには何が必要か」を念頭に研鑽に励む所存です。

久米 淳貴 (医科研修医)

私は現在、麻酔科で研修を行っています。

麻酔科での患者さんとの対面は手術前に病室を訪問し、麻酔の説明や診察するところから始まります。手術時には人工呼吸用チューブの口からの挿管や点滴をしたりして全身管理を行います。指導医の先生のもと日々勉強させていただいています。

まだまだ未熟ではありますが、患者さんに寄り添うことができる医師になれるように精進していきたいと思っています。

諸岡 光 (医科研修医)

私は現在、腎臓内科で研修をおこなっています。病棟業務として入院患者さんの回診を行い、病理カンファレンスに参加させていただいております。担当する患者さんの状態変化や検査結果に常に配慮し、上級医の先生方の指導の下で診療に励んでいます。

研修を通してどのように診察、治療、そして退院後にどのように患者さんに関わっていくかについて深く学ばせていただいております。

これからも患者さんの健康に寄与できるように日々精進して参ります。

伊神 智洋 (歯科研修医)



私は現在、名古屋市内の開業歯科医院にて、歯科医療全般について研修を受けております。

虫歯や歯周病など、普段在籍している口腔外科と異なる分野の治療を学ぶことで、私の歯科医師としての基礎を築き、幅を広げていただいております。

親身に患者さんのお話を聞き、患者さんに寄り添った治療を行うことができる口腔外科医となるべく、この機会を最大限に活用し、大いに学び、名古屋大学医学部附属病院に戻ってきたいと思っています。

※医科研修医の診療科は執筆当時

Nagoya Disease Information Center



ナディック再開について

患者情報センター（広場ナディック）は新型コロナウイルス感染症の影響で利用を休止していましたが、7月1日より患者さんの利用を再開しました。

再開にあたりマスク着用、手指の消毒など安心してご利用いただけるよう運営に努めてまいります。

なお、毎月開催していましたが教室（手作り、ちぎり

絵、折り紙）は当面の間休止。患者の集い、認知症サロン、肝臓病教室などの患者さん向けのイベントについては再開時期が決まり次第、院内掲示等でお知らせする予定です。

なお感染状況が悪化した場合など、状況を見て再び利用を休止する場合がございます。

(問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663)

■ ボランティアさん募集

当院ではボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



★ ボランティアホームページ
<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/recruit/volunteer/>
 『名大病院 ボランティア』で検索♪

■ 禁煙のお願い



患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

令和2年度鶴舞公開講座

第16回鶴舞公開講座について、令和2年11月に開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス対策の情勢に鑑み、今年度の開催を取りやめ、次年度へ向け、一年開催を延期することといたしました。

参加を希望されていらっしゃいました方におかれましては、誠に申し訳ございませんが、何卒、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

[お問い合わせ]
 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
 名古屋大学医学部・医学系研究科 総務課総務係 鶴舞公開講座担当
 Tel(052)744-2804、Fax(052)744-2785、E-mail: iga-sous@adm.nagoya-u.ac.jp

特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟各階に置かれているパンフレットをご覧ください。

URL: <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/>

QRコードでもアクセスできます!

